

ドル/円：上値余地が限られる展開続く。ドルの戻り売り方針継続。

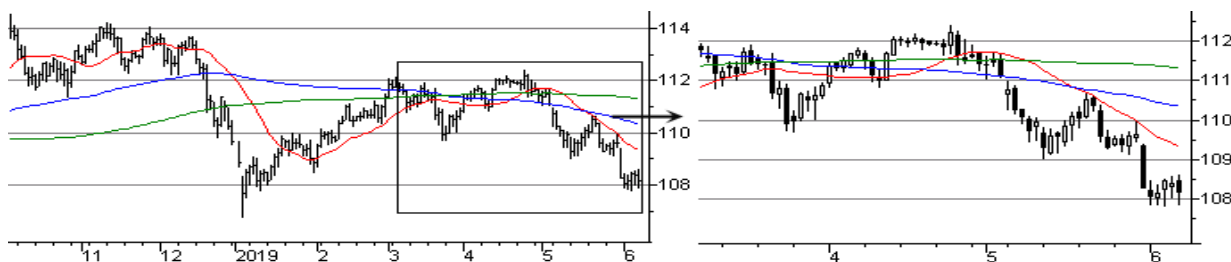
直近の日足は小陰線で終えた。単体では下げ余力の強いものではないが、108.50-60の軽い抵抗も上抜けておらず、トレンドの弱さが感じられる。現状は108.00-10の日足の抵抗を守って終えていることや、107.80~108.30ゾーンの中期的な下値抵抗ポイントにあることから、このレベルでの売りも慎重に臨む必要があるが、日足が107円割れで終わるか、週足が107.40-50の抵抗を下抜けて越週した場合は、新たなトレンド入りの可能性が高くなり、ドルの一段の下落に繋がり易くなる。短期トレンドは109.50超えに日足の実体を戻せば下値リスクが軽減されるが、110円超えで越週しない限り、上値余地も拡がり難い。日足の上値抵抗は、108.50-60、109.20-30、109.50-60に、下値抵抗は108.00-10、107.50-60、107.00-10にある。21日、120日、200日移動平均線は、109.32、110.35、111.31に位置しており、短・中期トレンドは“ドル弱気”の流れにある。

一方直近の週足は、十文字の寄せ線に近い形の足で終え、上下の抵抗を攻めきれずに週初の寄り付き水準に戻して越週している。上値を切り下げる流れには変化が認められず、また108.30-40の週足の下値抵抗も若干下抜けて越週しており、下値リスクが高い状態に変わりないが、107.40-50にもう一段強い抵抗が控えており、これを割り込んで終えない限り、下値余地もまだ拡がり難い。一方で上値も109.60~110.00ゾーンに週足ベースで見た強い抵抗が出来ており、これをしっかり上抜けて越週しない限り、短期トレンドは変化しない。またこの場合でも113円台で越週しない限り、下値リスクを残すことになる。今週の週足の上値抵抗は、108.50-60、109.60-70に、下値抵抗は107.40-50、106.00-10、104.60-70にある。31週、62週移動平均線は110.86と110.80に位置しており、中期トレンドは“ドル弱気”の流れに変化が認められない。

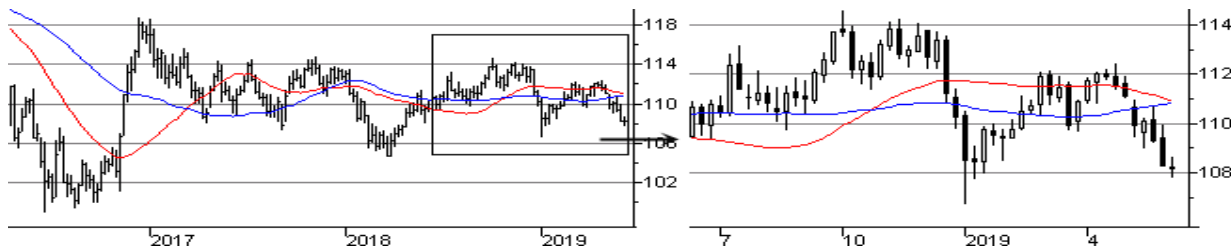
今週の戦略は、ドル買いは様子見か、107.50-60の押し目があれば軽く試し買い。損切りは新たな下落リスクが点灯する106.80で撤退。ドル売りは108.50-60の戻りを軽く売って109円超えで一旦撤退するか、109.20-30までの戻り待ち。この場合の損切りは109.70か、深い場合は110.10で撤退。

上値は、108.40-50に軽い抵抗が、108.80-90、109.20-30、109.50-60に強い抵抗が控えており、全てをクリア出来ない可能性が高いと見るが、110.00超えに値を戻した場合は、短期トレンドをニュートラルな状態に戻して111.00-10近辺にある一段と強い抵抗をトライする動きへ。この場合でも113円台で越週しない限り、下値リスクを残すことになる。下値は、108.00-10、107.80-90、107.50-60、107.00-10に強い抵抗があるが107円割れで終えた場合は新たな下落リスクに要注意。

ドル/円【日足】期間：2018/10/04~2019/06/07（移動平均線は21、120、200日、以下日足は同様）



ドル/円【週足】期間：2016/04/22~2019/06/07（移動平均線は31、62週、以下週足は同様）



1/2

© 2019/WFXA

当社に無断で複製または転送することは、著作権の侵害にあたります。民法の損害賠償責任に関われ、著作権法第119条により罰せられますのでご注意ください。

尚、このレポートは情報提供を目的としており、投資の最終判断は投資家自身でなさるようお願い致します。

TEL: 03 - 5695 - 7750 FAX: 03 - 5695 - 1150 E-mail: wfxa@wakafxinfo.com

HOME PAGE: <https://www.wakafxinfo.com/>**ユーロ/円：ユーロの反発余地を探る動き。123 円台を回復すれば“ニュートラル”に変化。
中期は“弱気”変わらず。**

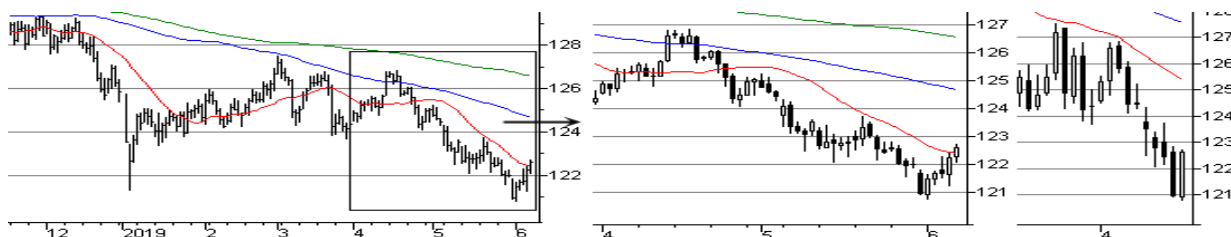
直近の日足は小陽線で終え、単体では上昇エネルギーの強いものではないが、4/17に付けた 126.81 を直近高値として上値を切り下げて来た流れから頭一つ上抜けた位置で終えており、短期トレンドが変化する可能性が点灯している。“ダマシ”となる可能性を残しているが、123.00-10 の抵抗をクリアした場合は、短期トレンドを“ニュートラル”な状態に戻して、反発余地を探る動きが強まり易くなる。この場合でも中期トレンドが弱いことからユーロ急伸にも繋がり難く、124.00～125 円台にある強い上値抵抗を抜けきれない可能性も高いと見られる。逆に、121 円割れで終えた場合や、値動きの中で 120.50 割れを見た場合は一段の下落リスクに要注意。日足の上値抵抗は 122.90-00、124.10-20、125.00-10 に、下値抵抗は 121.50-60、120.90-00、120.50-60 にある。21 日移動平均線は 122.42 にあり、若干上抜けて来たが“ダマシ”の範囲内にある。また、120 日、200 日移動平均線は 124.69 と 126.56 に位置しており中期トレンドは“ユーロ弱気”の流れにある。

一方週足は、前週の陰線を包む形の陽線が出ており、前週の下げ幅を切り返している。この勢いを借りて週初から上値トライの動きが強まると見られるが、上値を切り下げる流れからは完全に上抜けきれておらず、123.00-10 の抵抗をクリアするまでは、“ダマシ”となる可能性にも注意する必要がある。今週足が 122.90 超えで越週するか、123.00-10 の抵抗をクリアした場合は短期トレンドが変化して、上値余地を探る動きが強まり易くなるが、この場合でも昨年 9 月に付けた 133.13 を起点として上値を切り下げる流れには変化が認められず、この週足の上値抵抗が 125.00-10 にあること、また今年 1 月に付けた 121.29 を起点とするサポートラインから下抜けた位置で推移しており、この上値抵抗が 125.50-60 に控えていることから、これらをしっかりと上抜けて越週するまでは下値リスクを残すことになる。逆に 123.00-10 の抵抗に届かずに反落し、120.90-00 の抵抗を下抜けて終えた場合は再び下値リスクが高くなり、118 円方向への一段のユーロ下落に繋がり易くなる。今週の週足の上値抵抗は 122.90-00、125.00-10、125.50-60 に、下値抵抗は 120.90-00、117.80-90 にある。31 週、62 週移動平均線は 125.39 と 127.53 に位置しており、中期トレンドは“ユーロ弱気”の流れにある。

今週の戦略は、ユーロ買いは 121.50-60 の押し目待ち、損切りは下値リスクが点灯する 120.80 で撤退。ユーロ売りは週初の 122.70-80 を軽く売って短期トレンドが変化する 123.10 で浅めに撤退。これが付いた場合は短期戦略をユーロの押し目買いに転換とするが、中期トレンドが弱いので、新たな買いは 122.00-10 以下の押し目待ち。損切りは 120.80 に置く必要がある。

上値は、122.70-80 に軽い抵抗が、123.00-10 にやや強い抵抗があるが、全てクリアして 123 円台に乗せた場合は、短期トレンドが変化して上値余地を探る動きが強まり易くなり、124.10-20、124.60-70、125.00-10、125.50-60 にある強い抵抗をどこまでクリア出来るかトライする動きへ。下値は、122.00-10、121.50-60、120.90-00 にやや強い抵抗が出来ているが、120.90 割れで終えた場合は再び下値リスクが高くなり、120.50-60、119.80-90、119.50-60、119.00-10、118.60-70 にある下値抵抗をどこまで切り崩せるかトライする動きへ。この場合でも 117.80～118.00 ゾーンの抵抗は厚く簡単には下抜けそうもない。

ユーロ/円【日足】期間：2018/11/19～2019/06/07（移動平均線は 21、120、200 日）ユーロ/円【週足】



(川合 美智子)